

放課後等デイサービス虹の子保護者説明会（概要）

日 時：平成 27 年 12 月 16 日（水） 10：00～11：40

場 所：アドバンスながうら多目的ホール

1. 理事長あいさつと放課後等デイサービス事業所「風の子」について

<事業団 理事長>

先に出された検証委員会の最終報告に基づき、自主事業については、他の民間法人に移譲すべきという方針の中で、皆さまにもご連絡してきましたとおり、アドバンスながうらと児童デイサービス虹の子については、市原市に本部を置く社会福祉法人佑啓会さんに来年 4 月から事業を譲渡することになりました。

現在、佑啓会さんと一緒に協力して利用されている方たちが困ることのないように引き継ぎを行っています。まだ、すべてが完成されている形でご説明する段階になっておりませんが、本日は経過的な状況についてご説明させていただいて、皆さまのご協力を得ながら、来年 3 月 31 日までしっかり仕事をやり遂げ、4 月 1 日から佑啓会さんに引き継ぎをしていきたいと思っております。

最後に、もう一つお詫びしなければならないことがあります。検証委員会の最終報告では、事業団は県立施設のセンター部門の運営に集中して問題整理をし直すようにとの答申でした。これまで、なぜ、事業団が自主事業という形で事業展開をしてきたかということについては、簡単に言うと、入所施設を運営する中で、利用者のニーズや保護者・家族の思いに一つひとつ応えていくために、こうした事業が必要ということになり、拡がってきたと思います。学齢期の児童の居場所づくりとして、放課後等デイサービスにも取り組んできました。

しかし、事件以降、風の子については休業をしているという中で、いまの事業団としてこれを再開できる状況には社会的な立場を含めてないということで、今年度末に廃止せざるを得ないということを皆さまにご報告したうえで、お詫びを申し上げたいと思います。ご了承くださいと言っても、受けとめられる話ではないと思いますが、風の子が担ってきたことは、佑啓会さんに一つひとつお願いするとともに、この地域の中で仲間の法人が事業を展開していますので、そちらへ繋げることも、事業団として力を尽くしていきたいと思っております。ご了承の程お願いします。

2. 「児童デイサービス虹の子」事業所の移転について

3. 移転に伴う改修工事について

<事業団 児童サービスセンター所長>

児童デイサービスの保護者の皆さまには、平成 26 年 3 月 1 日に風の子を休止しますという説明をさせていただきました。その際に皆さまから早い時期の再開を願っていますという要望をいただいておりますが、その思いに事業団として応えることが

できないことになりました。本当に申し訳ありません。

現在は、次年度から運営していただく佑啓会さんと引き継ぎを始めております。先の見学説明会でも、里見理事長さんから、お子さんの問題は早期療育も含めて非常に大切な問題だと理解しているので、佑啓会としてもしっかり引き継いでやっていきたいという言葉をいただいております。

(アドバンスながうらの) 入所定員については、県が公募した事業規模が定員 80 名です。県内の入所枠が不足しており、入所待機となっている方たちが多数いらっしゃるという状況を踏まえてのこととご理解ください。

アドバンスながうらは、平成 7 年に開設した建物で、障害者総合支援法が規定する居室面積一人 9.9 m²を二人部屋(15.5 m²)では満たしていません。

このため、入所定員 80 名で運営するためには、虹の子部分を本来の居住棟として使用する必要があります。

また、佑啓会さんは、来年 3 月当初に図面や写真を添えて次年度の事業申請をしなければいけません。そのときに虹の子の事業所は移転を完了していなければいけない関係から、2 月に移転することになったことをご理解ください。

3 点の改修を 1 月中に行って、2 月から新たな事業所で運営を開始する予定です。

なお、これまで生活介護事業の活動室として利用してきましたので、トイレについては、介護スペースが確保された身障用で、シャワー設備も完備されています。後ほど、見学の際にご確認ください。

年度内になりますが、同じ敷地内の別の部屋に移転することについてご了解をいただきたいと思います。また、電話の移設やその他引っ越しの関係で、申し訳ありませんが 2 月 1 日は臨時休業とさせていただきたいと思いますので、併せてご了解をお願いします。

4. 質疑応答

<保護者>

うちの子は、車椅子利用です。虹の子は屋根があるので雨に濡れませんが、新しい場所はどうかっているのでしょうか？

<事業団 児童サービスセンター所長>

後ほど、ご確認いただきますが、スロープになっていましてそこには屋根がありますので、雨には濡れずに玄関にたどり着くことができます。

<保護者>

佑啓会さんの放課後等デイも利用しています。佑啓会さんだとおやつがパンしかでないということですが、虹の子だと色々な種類があるので自分の子どもが食べられるお菓子等を提供していただいているのですが、そのへんはどうなるのでしょうか？

<佑啓会 地域生活支援センター長>

佑啓会のデイサービスはアネッサと五井、ふる里学舎こども館の 3 事業所があって、

おやつについては、本体でパン工房がありますので、調味料がたくさん入ったスナック菓子より、自然食品の焼きたてパンを食べていただくほうが喜ばれるのではないかとということで、パンを提供しています。ただ、パンを好まないお子さんが多いのであれば、絶対パンしか出しませんということではなくて、お子さんが楽しみにして、安心して食べられるというものを保護者の皆さんと相談して提供していきたいという思いはあります。ただ、根底にはスナック菓子よりなるべく添加物のない美味しいものを食べていただきたいという趣旨をご理解いただきたいと思います。これについては、個別にご相談させていただきたいと言うことになるかと思います。今の時点でこうしますと言うことまでは申し上げられませんので、大きな方向性、佑啓会の考え方だけご理解いただきたいと思います。

<保護者>

子どもが君津特別支援学校に在学していますが、学校への送迎はどのようになりますか？また、定休日はなくなるということですが、現在、君津には月、水、木の3日間のみ迎えに来てくれますが、今後、毎日迎えに来てくれることになるのでしょうか？

<佑啓会 地域生活支援センター長>

基本的な考え方としては、いま送迎を使って利用されている方については、なんとか工夫をして継続していきたいと思っております。ただ、この場でできますと安易に断言できない状況です。歯切れが悪くて申し訳ありません。方向性としては、いまのサービスは最低限維持できるように努力していきたいと思っています。まだ、実態が十分把握できていない状況ですが、事業所の移転後、2月から併行運営という形で佑啓会のスタッフ2名を虹の子に派遣する予定でありますので、この中で、きちんと見極めをして、特定の方だけではなく、みなが良いサービスを受けられるようにという視点で考えていきたいと思っています。

<保護者>

現在は、虹の子の中庭スペースで自転車遊びなどをしてしていますが、今後のスペースでは自転車遊びなどはできないのではないかと思いますのですが。

あと、夏休みや学校の振替休日に虹の子を利用することになると成人の方たちが作業をしている横で、子ども達が遊ぶことになると、成人の方たちが作業に集中できないことがないのかどうか気になります。

<佑啓会 地域生活支援センター長>

アドバンスは本当に敷地が広くて、これを活用していきたいと思っています。放課後等デイのエリアを限定してすすめようとは全く思っておりません。これだけの自然があって、広場があってということですから、自転車遊びも職員配置を確保して安全に行いたいと思っています。室内が好きな方、外遊びが好きな方それぞれのニーズに合わせて対応していきたいと思っています。

また、成人の利用者さんが集中できないのではないかとのご心配ですが、確かに

お子さんの声が苦手な方もいらっしゃると思います。こちらも活動スペースが広いですから、そのような方については、この広い活動スペースの中で、その方の作業環境を整備するというようにしたいと思います。

また、次年度から虹の子を加えて法人全体で放課後等デイサービス事業所が4箇所になります。4事業所の特長を活かして連携しながらニーズに応じていきたいという思いでおります。まだ、検討中ですが、虹の子とアネッサは連携していこうと考えています。アネッサは、重症心身障害児の受け入れも行っていますので、あちらは室内での活動が向いている方中心に、虹の子は元気な方中心に受け入れしたらどうなのかと考えています。アネッサと一体的な運営ということで、距離は車で6～7分程度なので、そうした組み合わせで考えていきたいと思っています。

<保護者>

移転する場所は、現在、生活介護の方たちが利用している場所とのことで、その方たちへの影響が心配なのですが、教えてください。

<事業団 児童サービスセンター所長>

先ほどの説明で漏れていました。失礼しました。実はアドバンスながうら内に事業所がもう一つあります。ながうら地域支援センターといって、相談支援やグループホーム支援を行っている事業所です。こちらの事務所が、年内に、袖ヶ浦福祉センターに移転し、空き室になります。そちらをアドバンスの成人の方たちの作業場所にする予定です。そのため、作業活動スペースは減らないということになります。

<保護者>

先ほど、虹の子の定休日がなくなるということで、有難うございます。

職員さん達の休日はどうなりますか？同じ労働者として心配です。

きちんとしたローテーションを組んで、休日を確保してあげてください。

<佑啓会 地域生活支援センター長>

ご心配いただきまして有難うございます。開所日数が増えれば、配置職員数も増えるシステムになっています。佑啓会では、週7日間開所することを前提として職員配置を行いますので、問題はありません。また、佑啓会では配置数ぎりぎりだとプラスアルファの支援ができませんので、どの事業も上乘せ配置をしています。また、法人全体で職員の応援体勢をとるようにしています。

<保護者>

虹の子は事業団が運営しているので事業団職員ですが、学舎さんが運営することになると、すべて学舎さんの職員さんが担当することになると考えて良いのでしょうか。

<佑啓会 地域生活支援センター長>

当然、保護者の皆さんにとっては、職員ががらっと入れ替わる事への心配があると思います。そういったこともあって、2月から併行運営するということもあるのです。

が、本来ですと、虹の子の職員さんが全員残って佑啓会の職員として継続して働いていただくことが、ベストだと思うのですが、それぞれの考え方もありますので、全員が残っていただけるということはありません。ただ、少なくとも何名かの方は残っていただけると思っています。その場合、その方たちは、4月から佑啓会の職員として働いていただくことになります。併行運営期間を使って、問題なく引き継ぎを行っていきたいと考えています。

<保護者>

私もアネッサを利用していますが、手続きなども異なっています。利用料金も虹の子は現金での集金ですが、アネッサは振り込みというように。そのへんは、どのように変わる予定でしょうか？

<佑啓会 地域生活支援センター長>

基本的には、利用料の支払いについては、ニコスの集金代行サービスを使っていたことになると思います。これは法人全体でそのようになっています。なぜかと言いますと、いま現場のスタッフの事務量が非常に増えているので、そういった部分はなるべく省いて支援に集中させたいという思いがあります。現金の受け渡しは色々な意味でリスクも大きいです。ただ、ご事情があってという方については、ご相談していただければと思います。

<保護者>

先日の見学説明会にも参加させていただきました。送迎や開所時間がはっきり決まるのはいつ頃になるのでしょうか？

<佑啓会 地域生活支援センター長>

次年度から利用するために皆さんとは契約が必要になりますので、その前に重要事項説明書を説明させていただく予定です。2月中にはきちんとした形で示せるようにしたいと思っています。

いまはっきりしているのは、定休日をなくすということと時間延長にも対応していきますということです。但し、どの制度を使うのかは未定です。(佑啓会の) 8月の納涼祭(第2土曜日)は休業。年末年始は12/31~1/3までが休業になります。

<保護者>

延長ができるということで、日中一時の可能性もあるというお話がありましたが、日中一時の契約ができる可能性があるということでしょうか？

<佑啓会 地域生活支援センター長>

そうです。袖ヶ浦市との協議にもなりますが。日中一時があることによって、放課後等デイの最大利用数を超えた方についても、日中一時を利用して受け入れができるということになります。皆さんにとって良いように事業は進めていきたいと思っています。皆さんのニーズに応えていくためには、日中一時も利用していかないと応えき

れないという見込みを立てています。

<保護者>

先のことになりますが、いま袖ヶ浦市まで放課後等デイを拡大していて、木更津に成人の通所施設ありますよね。今後、木更津や君津まで放課後等デイや日中一時等の事業を展開していくということを考えているのでしょうか？

<佑啓会 地域生活支援センター長>

正直言って、今の時点ではまったく考えていません。現在は、アドバンスと虹の子をどのように運営していけば良いのかを考えるので精一杯な状況です。あと、千倉に知的障害児の入所施設をオープンするということもあって、法人の体力ではこれ以上のものは無理だと判断しているところです。当法人の考え方としては、ニーズがあって、ニーズに応えられる体制が整えば、どうしたらニーズに応えることができるだろうかというスタンスで法人運営をしていますので、将来的に全くその可能性はありませんよということも言えません。

<保護者>

アネッサを利用している方に聞いたところ、夏休みなどは、ふる里学舎本体にバスで活動場所を移して行っているということですが、虹の子もそうなるのでしょうか？それとも、こちらでみていただけるのでしょうか？

<佑啓会 地域生活支援センター長>

これだけのスペースがありますので、虹の子については、こちらで活動します。アネッサで受けて本体で活動するというのは、ある意味で遠足、外出のようなものです。本体には芝生があって、自然があって、水遊びができてということもあるので、お子さん達もののびのびと夏休みを過ごす事ができます。ですが、ここは環境的に整っていますので、本体に行くことは必要ないと考えています。逆に言うと、アネッサで受け入れた方が日中、こちらへ来ることも想定できるのではないかと思います。

<保護者>

いま、虹の子は第1希望、第2希望があって、利用できない日があるのですが、お話を聞いていると、そういうものがなくなるのかなと思われそうですが、いかがでしょうか？

<佑啓会 地域生活支援センター長>

現状、極力希望に応えられるような体制で受け入れをしています。ただ、特定の日に利用が集中してしまうということがあれば、調整が必要という可能性もありますが、原則、希望どおり受け入れを行っています。これは必ず行います。ということではなくて、どうすれば受け入れできるようになるかということを基本に、事業運営をしています。

<保護者>

虹の子では、肢体不自由のお子さんでも車椅子から降ろして床で動けるお子さんと一緒に空間で過ごすところが気に入っていました。今後、アネッサと虹の子が一体的に運営することになると、スペースも広がるので、車椅子利用のお子さんもずりばいなどでも良いので、床で過ごす時間を増やしていただくように要望します。

<佑啓会 地域生活支援センター長>

なるべくお子さん達の事故や怪我等のリスクがない環境を設定して過ごしていただきたいという基本的な考え方はあります。どうすればリスクを減らせるかたちで活動できるかを考えるのが、私たちの仕事だと思って取り組んでいきたいと思います。

<保護者>

現在の虹の子は、学校まで迎えに行って、夕方自宅まで送っていただいています、送迎についてはどうなるのでしょうか？

<佑啓会 地域生活支援センター長>

送迎については、迎えは学校まで行っています。いま、市原も特別支援学級や普通学級の方も送迎希望があって、複数便迎えに行っています。次年度以降、虹の子が加わることによってどのような体制が必要になるのか、どうすればニーズに応えられるのかをシミュレーションしています。全体のバランスや送迎の必要性を勘案して、優先順位を決め、できるだけニーズに応えていきたいと考えています。

<保護者>

今のお話で、ニーズに応じていくということですが、今日、持ち帰って新たな要望等については、どちらへお話すれば良いのでしょうか？虹の子さんですか。佑啓会さんへ直接お話しするのでしょうか。

<佑啓会 地域生活支援センター長>

それは、いま虹の子さんとも連携して引き継ぎを行っているところですので、虹の子の慣れた職員さんに伝えておいていただければ、どうしていけば良いかを一緒に考えていきたいと思います。

<保護者>

利用料金は増えることが想定されますか？

<佑啓会 地域生活支援センター長>

基本的に1割負担の部分については、どの事業所を利用しても変わりません。ただ、おやつや食事代が若干変わってくると思います。

<保護者>

うちの子は、虹の子さんで落ち着いて活動できています。フリーの時間の過ごし方

が苦手で、虹の子ではおやつや宿題、外遊びなど短時間で区切って活動を入れてくれています。アネッサさんでは、宿題はできません。と言われていますが、今後、虹の子はどうなりますか？

< 佑啓会 地域生活支援センター長 >

佑啓会の放課後等デイサービスの基本となっているのは、遊びを通していろいろな学んでいただく。ということです。〇〇療法とかを前面に出した活動ではありません。ただ、個別のニーズがあるので、個別支援計画を作成する段階で保護者のニーズを聴き取り、本人にとってプラスになる取り組みだと共通理解でき、支援可能な体制が確保されているなら、取り入れる可能性はあります。

そういったご心配なことは、相談していきたいと思います。ただ、何でもできますというわけではありません。佑啓会は、できないことを曖昧にではなく、はっきりお伝えするようにしています。今後、児童発達支援管理責任者との面談の際には、要望をお伝えください。

< 保護者 >

アネッサさんも利用していて、そこだけ不安定になるからと補聴器が着用できない状況となっています。今後、アネッサと一体的に運営する事になると、虹の子でも補聴器を着用できなくなるのではないかと不安です。

< 佑啓会 地域生活支援センター長 >

いろいろな要因があると思いますが、なるべく補聴器を外さなくて良い環境を整えられるように努めていきたいと思っています。今後も、そうした心配な点を表に出していただき、相談しながらすすめていきたいと思います。

一つだけ申し上げておきたいことは、学校とは違うということです。学校並みのことを求められる保護者の方がおられますが、それは難しいということです。これは、明らかに人員配置基準が違うということです。学校はほぼマンツーマンに近く教職員が配置されていますが、福祉においては、そのようなことはありません。福祉の枠組みの中でできることは一所懸命やっています。比較対象を学校にさせていただきたくないというのはお願いしておきたいことです。

< 保護者 >

高等部になって、デイサービスを利用するのは止めた方が良くとある施設の方に言われました。早く大人の中に入って慣れておくことが必要。学校から帰ってきたら日中一時で大人の中で過ごすようにした方が良くとも。ですが、とても不安です。ふる里さんで放課後等デイで学校に迎えに行き、着いたら女子寮で過ごすということは可能でしょうか？

< 佑啓会 地域生活支援センター長 >

助言をした施設の方の意図は分かりませんが、基本的には、ケースバイケースです。たとえば、中学生であっても大人の中で一緒に作業活動をした方が良く方もいれば、

高等部3年生でも放課後等デイで受け入れをした方が良い方もいます。ですから一概に中学までは、高等部になったらということではないと思います。私たちは、お子さんの5年後、10年後を見据えていま何ができるか。という視点で考えています。ですから、素直に保護者と相談してすすめていくということを基本としています。

<保護者>

先ほど、おやつはパンだということでしたが、給食の提供の方法も変わりますか？

<佑啓会 地域生活支援センター長>

これまで同様、こちらの給食を利用できます。また、次年度、食品加工室をパン工房にしていく計画でおります。次年度4月からではなく、譲渡後に機材を導入して、就労移行の作業の一環として、取り入れようと思っていますので、焼きたてパンをおやつに召し上がっていただくことを前提に考えています。